

ネイティブの絵本読み聞かせ 効果的



酒井邦嘉教授

幼児期から英語とふれ合うには、どのような方法が効果的なのだろうか。言語脳科学が専門の東京大の酒井邦嘉教授に聞いた。



言葉は、文章や会話で覚えます。幼児に単語やアルファベットから教える方法はとても不自然です。

リンゴが食べたいか尋ねるときは「Do you want an apple?」と動詞や冠詞も必要です。「リンゴ=apple」と単語だけ覚えさせたり、あ

いさつだけ暗記させたりしても会話に発展しません。

アルファベットなどの文字は、音声による言葉を人工的に置き換えた記号にすぎません。脳にまだ英語の音声が入り込んでいない状態で教えても、文字から音声に直せません。

幼児に英語に触れさせるなら（英語を母語とする）ネイティブスピーカーによる絵本の読み聞かせが良いでしょう。絵から連想する物語と朗読の声を重ね合わせることで、文章の意味まで自然と脳に入ります。好きな映画やアニメの英語版を繰り返し見るのもいいですね。主人公になりきってセリフを覚えたら、自信を持って話せるように

なります。

英語のネイティブスピーカーにスピーチなどを指導してもらえる機会があれば、生きた英語を学べます。いいプレーをして「Good job!（グッジョブ、よくやった・がんばった）」と言われたら、ほめ言葉だと体験で理解し、自分でも使えるようになります。英語が自然に身につく環境を整えば、幼児期から英語に触れるのは有効です。

保護者は子どもに英語で何ができるようにさせたいのでしょうか。国際会議で討論や通訳ができるような能力を求めると、幼児期から英語に触れる環境にいた方が効果的ですが、そこまで求めないなら、急ぐ必要はありません。まずは、英語を通して多様な文化の楽しさを体験してみるのはいかがでしょうか。